No	都道府県名	医・科学委員会等スポーツ医・科学に関しての会議体・組織について スポーツ医・科学関連会議体・組織体の名称	内訳 医師	トレーナー	歯科医	スポーツ栄養士	栄養	心理	その他	その他の内容	Q2. Q1における会議体・組織の活動内容 ①国体へのメディカルスタッフの帯同派遣	②国体強化等に関する医・科学サポート	③ドーピング防止に関する活動	④競技会開催にかかる医事サポート	⑤指導者・競技者へのスポーツ医・科学に関する啓発活動	⑥外傷・障害予防などに関する調査・研究	⑦総合型地域スポーツクラブのサポート	⑧有望競技選手のタレント発掘・育成への関与	⑨その他	Q3. 医・科学サポート活動について、新たな取組や課題
1	北海道	スポーツ科学委員会	5		1		3	1	2	1	薬剤師	本大会:ドクター2名、薬剤師1名 冬季大会:ドクター3名、歯科医1名	強化合宿などへ医科学スタッフを派遣	強化合宿での出前講座や国体結団式後に講座を実施	なし	医科学研究事業として各委員が研究・調査を行い、報告書を作成	医科学研究事業として各委員が研究・調査を行い、報告書を作成	なし	なし	なし	なし
2	青森県	青森県スポーツドクターの会 ※青森県体育協会内の会議体・組織ではない。日体協公認スポーツドクター等による任意団体。	98	69			2		27	27	ファーマシスト27名	東北ブロック大会　帯同ドクター4名　帯同トレーナー8名（平成24年度実績） 本大会　帯同ドクター5名　帯同トレーナー7名（平成24年度実績） 冬季大会スケート・アイスホッケー競技会　帯同ドクター1名　帯同トレーナー1名（平成24年度予定） 冬季大会スキー競技会　帯同ドクター1名　帯同トレーナー1名（平成24年度予定）	関係競技団体が行う「国体選手強化合宿」等へのサポートドクター・トレーナーの派遣。 「青森県スポーツ科学センター（検診業務）」へのスポーツドクターの派遣。 ※青森県の国体強化費補助金は、青森県スポーツ科学センターにおける測定・検査に係る経費も補助対象となっている。	日体協からの補助を受けて、県体協が年数回実施している「ドーピング防止研修会」等への講師（スポーツファーマシスト）の派遣。 スポーツファーマシストによる、県民体育大会会場等における、「ドーピング防止」やスポーツファーマシストの活動を紹介」するブースの設置。	県民駅伝大会等への救護スタッフ（スポーツドクター）の派遣。	県教委や県体協が開催する指導者研修会等への講師・パネリスト（ドクター・トレーナー・ファーマシスト・栄養士）の派遣。	なし	なし	県教委が開催する「スポーツ選手基礎力向上キャンプ」（将来、国際大会や全国大会において活躍できる選手の育成・発掘を目的としている。）への講師・指導者（スポーツドクター・ファーマシスト・栄養士）の派遣。 また、岡キャンプの内容の検討等を行う「県トップアスリート育成支援連絡協議会」への委員（スポーツドクター・トレーナー）の派遣。	県体協内の会議体（理事、競技力向上委員会委員）としての協力。	なし
3	岩手県	スポーツ医・科学委員会	12	6	2		4	3	0	6		本大会　　ドクター4名、薬剤師1名、トレーナー4名 冬季大会　ドクター5名、薬剤師1名、トレーナー2名	強化指定競技・高校へのトレーナー派遣	toto助成を受けてのドーピング防止教育啓発事業 ・国体ブロック下選、国体本大会前の監督会議等での研修会 ・ドーピング防止研修会 ・一般医薬品使用可能リストの作成	今年度は実施していないが、21年度、23年度は全国高等学校ハンドボール選抜大会においてトレーナーブースを設置し、大会における医事サポート等を実施した。	各地域でのスポーツ医・科学講習会を開催。（今年度は山田町、紫波町での開催を予定）	岩手医科大学と委託契約をし、本県所属の国民体育大会選手等に医・科学的な測定を行い調査している。	講習会講師等の相談や、講師対応を行っているが直接的な関与はしていない。	医科学委員会との直接的な連携はないが、医科学委員会のメンバーがタレント発掘・育成事業に関わっている。（医師、科学者、トレーナー、栄養士、DCOなど）	71国体の専門委員会としての機能を持ち、岩手県独自のアスレティックトレーナー養成事業にも関わっている。	震災後凍結した健康科学センター建設、そのセンター機能だけでもスタートさせ、国体強化のみならず被災地の健康増進などの医科学支援も含めた取り組みが行われる予定である。
4	宮城県	宮城県スポーツ医学懇話会	130								トレーナー、スポーツ科学研究者　数名	宮城県支部として派遣ドクター1名	現在検討中	会員が国体参加選手に対して講義実施	特になし	現在検討中	宮城県教育庁スポーツ健康課、宮城県体育協会、東北大学(医学部創生応用医学研究センター・スポーツ科学コアセンター、同運動学、同整形外科)との共同事業として宮城のU15のU18スポーツメディカル事業（仮）を計画中。スポーツ障害の一次予防を目指した調査。	特になし	仙台大学の事業に会員の一部が協力	年4回のスポーツ医科学に関する勉強会を実施。テーマは 整形外科系（スポーツに関連する障害・外傷など）あるいは内科系・その他（オーバートレーニング、健度スポーツ、こどもの体力、日米健度スポーツ事情など）	Q2-6の調査研究事業を計画中。スポーツ障害の一次予防を目指す。
5	秋田県	スポーツ医・科学委員会	20	7	1		0	3	1	22	大学教員、県関係課職員、総務等	ドクター　本大会4名、冬季大会3名 トレーナー派遣は、体協外機関が担当。	・国体選手のメディカルチェック、サポートを行っている。 ・委員は、個々に、県スポーツ科学センターが実施している体力診断事業に協力している。	講習会等の実施、資料配付、ドーピングチェック（国体選手）を実施している。	なし	公認スポーツ指導者、スポ少認定員の講習会・研修会等で委員が講師を務める機会には、啓発をしている。	秋田県スポーツ医学研究会に参加している委員も多く、秋田県医師会や秋田大学医学部の医師等と協同で研鑽を重ねている。	なし	県スポーツ科学センターのタレント発掘プロジェクトに、各々が協力、サポートをしている。	なし	課題　・選手強化に間わるサポート。 ・スポーツドクター等の日体協公認資格の保有者を増員する。
6	山形県	スポーツ医科学委員会	7	2	1		1	1		3		ドクター1名、トレーナー延べ25名 ＊トレーナーはブロック大会を含む。	山形県体育協会のホームページへの情報提供や国体への帯同ドクターの派遣などを行っている。	国体の山形県結団式において、ドーピング予防研修会の実施や、スポーツファーマシスト情報の提供などを行っている。	国体帯同ドクター派遣や競技会での救急病院の情報提供など。	各種研修会でのスポーツ医・科学の啓発活動など。	スポーツ医科学委員が調査・研究している内容を県体育協会ホームページに提供していただき、障害予防の啓発に努めている。	各委員による職場、研修会等において、総合型地域スポーツクラブの啓蒙活動や協力に努めている。	山形県タレント発掘事業「YAMAGATAドリームキッズ」の選考委員会委員としてサポートしている。	県体育協会専門委員会のひとつとしての「スポーツ医科学委員会」から、年1回活動報告書を発行している。	・県体育協会のホームページでの情報提供の充実。 ・スポーツ外傷やスポーツ栄養などについての情報発信の充実。 ・スポーツファーマシスト情報の発信
7	福島県	スポーツ医・科学委員会	6	0	0		1	1	0	7	加盟競技団体　5名 本会理事　2名	ドクター1名。トレーナー2名程度。	スポーツ医事・トレーニング相談事業として講師を派遣。	国体監督に対するドーピング防止研修会の開催。 リーフレットを作成し、国体選手、各高校運動部活動を行う生徒等へ配布。 スポーツ医事・トレーニング相談事業として講師を派遣。	なし。	スポーツ医事・トレーニング相談事業として講師を派遣。	なし。	スポーツ医事・トレーニング相談事業として講師を派遣。	スポーツキッズ発掘事業への助言・指導。	なし。	国体選手に対して、薬とサプリメントについての意識調査を実施。結果をもとに各競技団体への情報提供、啓発活動、精神的な指導・支援をすることが課題。
8	茨城県	スポーツ医科学委員会	22		1		2		1	1	薬剤師	ドクター1名は必ず帯同している。	茨城県広域スポーツセンター構想の中で医科学サポートを構築しつつある。	アンチドーピング委員会を設置しており、講義や講演会を段ていている。特に国体参加選手に対しては結団式の際に講演を行い周知させている。	競技団体によっては、大会のサポートを各競技団体の医事委員会で行っている。	年に一回「茨城スポーツ医学研究会」を開催している。昨年で第30回を迎えた。	筑波大学体育系と連携してスポーツ外傷の調査、予防、新たな治療法に関する研究を行っている	上記を参照、協力医療施設を認定して、そこで医科学サポートを構築中である。	県を挙げて茨城国体に向けて小、中、高で行いつつある。	「医科学分野をはじめとする総合支援事業」 競技団体、総合型クラブ等栃木県内の団体に募集をかけ、依頼に応じて以下の6分野の支援をおこなう。 スポーツドクター アスレティックトレーナー スポーツ科学 スポーツ栄養学 スポーツ心理学 スポーツ社会学	国体帯同やドーピングコントロール等、公認スポーツドクター栃木県連絡協議会の力をお借りして実施している。その他の分野でも県内スポーツ団体「総合支援事業」を今年度より実施したが、まだまだ支援組員の充実、団体への募集等で課題がある。	–
10	群馬県	スポーツ医科学委員会	6	1	1		5			1	薬剤師	ドクター5名	4名	1名（薬剤師）	群馬県スポーツドクター協議会員	スポーツ医科学委員会委員	スポーツドクター協議会安全委員会	なし	スパーキッズ選考会にスポーツ医科学委員会が協力	なし	なし
11	埼玉県	スポーツ科学委員会	16	100	1		17	4	2	20	コーチング専門部会（現場指導者中心）	ドクター7名、トレーナー12名	国体選手（候補含む）を毎年3競技を3か年継続でメディカルチェック、体力測定、スポーツ心理学講座、スポーツ栄養学講座を実施	国体会議、研修会、インターハイ結団式、国体結団式においてドーピングチェック。 対象は競技団体理事長・強化委員長・強化スタッフ・監督・コーチ・選手	競技団体からスポーツ科学委員会に対し、依頼があった際に対応している。 ポクシング（競技団体、チーム、市町村など からの依頼も受け付ける）	スポーツ指導者研修会においてスポーツ科学委員会講演会、パネルディスカッションを実施し、毎年異なった医科学の話題を提供している。	医学専門部会（ドクター）でマニュアルを作成した。	なし	彩の国プラチナキッズ発掘・育成プログラムにおいて、スポーツ科学委員会全面協力のもと、子供たちはもちろん、保護者にも提供している。	落雷対策マニュアル作成	アンチ・ドーピング小委員会には歯科医1名、薬剤師4名、医師7名が活動している。
12	千葉県	スポーツ医事・科学研究委員会	10	2	1		1	1	0	9	学識経験者6名、薬剤師（スポーツファーマシスト）1名	ドクター：本大会1名、冬季大会1名 トレーナー：25名（11競技）	強化選手への能力測定、トレーナーによる備害相談の実施。 強化練習、合宿等へのトレーナー派遣。	・国体結団式でのドーピング防止講演。 ・ドーピング防止講習会（年1回）の実施。 ・能力測定時のドーピング防止講習会の実施（スポーツファーマシストによる講演）。	県民体育大会におけるトレーナーサポート。	スポーツ科学講座、アスレティックトレーナーシンポジウムへの参加呼びかけ（資格更新のための義務研修としても実施）。	なし	なし	なし	なし
13	東京都	スポーツ医・科学委員会	8	0	0		0	0	0	4		大会期間中は、スポーツドクターを最低1名は帯同するよう調整している。	国体選手の健康管理やドーピング防止活動の普及	ドーピング防止講習会等の開催	特になし	ドーピング防止講習会等の実施	スポーツ医・科学委員会で委員各自により、調査・研究を報告している。	特になし	メディカルチェック等の実施	特になし	更なる国体選手等の健康管理・ドーピング防止の啓蒙活動
14	神奈川県	スポーツ医科学委員会	25	1	1		2	0	0	3	薬剤師、競技団体、行政	ドクター　本大会4名、冬季2名	スポーツ医科学サポート部会設置	アンチ・ドーピング教育啓発担当による。	スポーツ医科学支援事業として講負う。	スポーツ医事相談事業の開設。 トレーナー部会による研修会、サービスステーションの実施。	なし	なし	競技団体の依頼により実施。	なし	なし
15	山梨県	スポーツ医・科学委員会	5	2	0		1	2	1	5	薬剤師、競技関係者	スポーツドクター　1名	国体選手等へのメディカルチェック(内科・整形)、体力・バイオメカニクス関係、栄養関係、 心理関係、コンディショニング関係の6分野から医・科学サポート事業を実施	国体等におけるドーピングコントロールに向けての体制づくりと併せて、アンチドーピング教育・啓発事業の一環として「アンチ・ドーピング講習会」を年2回開催 ドーピング問題に関するアスリートとしての自覚や意識を高め、更なる競技力の向上を図ることを目的に、競技団体毎に「アンチ・ドーピング個別講習会」を年5競技団体開催	なし	スポーツ医学的・科学的面からの情報を提供し、競技力の向上や体力の向上を図ることを目的に、「スポーツ医・科学セミナー」を年1回開催	なし	なし	なし	なし
16	長野県	体力向上・スポーツ医科学専門委員会	2	3	0		3	1	1	3		ドクター10人 トレーナー42人	・北信越国体において、ドクター、トレーナー、栄養士等を派遣する「北信越国体ﾏﾙﾅｻﾎﾟｰﾄ事業」の実施。 ・国体強化練習や合宿への、ドクター、トレーナー、栄養士等を派遣する「巡回サポート」実施。 ・全国体種目を対象とした、メディカルチェックを行い、外傷・障害の把握と予防に努めている。 ・医科学についてのさまざまな相談に対応する「医科学相談」の実施。	・長野県独自の「使用可能薬リスト」を作成し、全選手に配布。 ・国体監督会議時に、スポーツ医科学サポート会議を行い「うっかりドーピングの防止」というテーマで、薬剤師に講義を行ってもらった。	特になし	・国体監督会議時に、スポーツ医科学サポート会議を行い、外傷・障害の把握と予防に努めている。	全国体種目を対象とした、メディカルチェックを行い、外傷・障害の把握と予防に努めている。	特になし	共通プログラム開催時（月3回）に長野県日体協公認スポーツドクター競技会と体力向上・スポーツ医科学専門委員会より2名のドクターを派遣していただき、メディカルチェック等を行っている。	特になし	特になし
17	新潟県	現時点で該当する会議体・組織は無い	0	0	0		0	0	0	0		新潟県スポーツドクター協会と連携して対応している	各種別団体と協議の上、新潟県健康つくりスポーツ医科学センターを利用して運動解析や呼吸機能などの医科学支援を行っている	各種別団体への定期的周知 新潟県スポーツ医科学センターでの講義開催 指導者講習会への講師派遣	必要があれば新潟県スポーツドクター協会や新潟県体育協会AT部会と連携して対応している	必要に応じて新潟県スポーツドクター協会と連携して対応している	新潟県健康つくりスポーツ医科学センターで行っている	特に無し	特になし	特になし	今後、医科学サポートに関する組織を構築する予定である。AT部会は昨年発足した。現状では必要に応じて各専門組織、団体と連携している(新潟県スポーツドクター協会、新潟県健康つくりスポーツ医科学センター、各競技団体の医科学委員会など)
18	富山県	スポーツ医・科学委員会	6	0	0		0	1	0	1	薬剤師	本大会　ドクター2名 冬季大会ドクター1名	強化指定選手及び国体選手を対象とした問診票による健康診断	ドーピング防止講習会の開催 24年度　年4回	なし	富山県体育センター事業スポーツ医・科学サポート推進事業へ委員を派遣	なし	なし	未来のアスリート発掘事業選考委員会 委員長　参画	なし	なし
19	石川県	スポーツ医・科学委員会	12									本会の外部団体に県スポーツドクター協議会という組織があり、この団体と連携し国体へのドクター派遣を行っている。 1日1名（述べ）のドクターを派遣している。	国体強化指定選手を対象としたメディカルチェックを年に1度開催している。	アンチ・ドーピング研修会を年に2～3回開催している。	なし	なし	なし	なし	なし	なし	国体への帯同について、ドクターだけでなく、トレーナーの派遣について現在思案中である。
20	福井県	福井県スポーツ医・科学委員会	5	1	0		4	2	2	6	行政関係者、体協	ドクター、トレーナー、心理士	大会前のトレーニング指導、心理サポート、栄養指導	年間5回開催。田に国体監督・選手	なし	国体入賞対策会議、国体表彰式、壮行式などでの活動報告。 競技団体宛各種配布物。	選手対象のアンケートメディカルチェック。 アンケートを受けた2次検診。 2次検診受診者対象の追跡サポート。 「選手カルテ」によるデータ管理。	なし	医科学委員会の下部組織に部会設置を準備中。 部会員として活動を希望するタレント対象に研修会開催。	なし	上記に含む
21	静岡県	スポーツ医・科学委員会	4	2	1		3	1	1	4	県体協副会長（委員長）・薬剤師・高体連理事長・県教委指導主事	平成24年度岐阜国体ではドクター4名、トレーナー17名を帯同	スポーツ医科学活用事業の実施（フィジカル測定・メンタルトレーニング・ドーピング防止指導・栄養指導） 国体選手全員のメディカルチェックを実施し、すべての選手に文書で詳細な助言指導を行った。	選手・監督・コーチ・トレーナー・選手保護者向けのドーピング防止リーフレットを作成し、指導・助言を行った。 競技団体別の講習会の実施	各種大会（すべてではない）に医師帯同	各種協議会等で、スポーツ医・科学事業説明及び成果の報告	なし	なし	なし	スポーツ医・科学活用事業の講師斡旋一覧表の作成（出前講座の紹介等）	平成22年～23年かけ「スポーツ委員からのメッセージ」と題して、14回にわたり各専門分野からメッセージを寄稿。それらをまとめた冊子も作成。(新聞掲載は競技者や指導者のみならず、一般人にも啓発できた) 同様な取組みを検討中
22	愛知県	スポーツ科学研究委員会	5	1	0		1	0	0	3	薬剤師1名、競技団体役員1名、県教委1名	ｽﾎﾟｰﾂﾄﾞｸﾀｰ連絡協議会より　ドクター6名。 ｱｽﾚﾃｨｸｽﾄﾚｰﾅｰ連絡協議会より　トレーナー11名。	監督、選手へのメディカルチェックを実施	ドーピング防止活動の啓発 ・アンチ・ドーピングリーフレット作成、配布 ・選手団結成式時におけるドーピング防止講話	スポーツドクター連絡協議会より 加盟団体開催スポーツ事業へのドクター派遣	なし	なし	なし	なし	なし	なし
23	三重県	スポーツ医・科学委員会	6	0	0		1	1	2	6	薬剤師1名、指導者3名、県体協役員2名	ドクター5名～6名	県内指定選手の調査研究事業	国体出場監督への研修会を開催	競技団体からの依頼があれば派遣	毎年1回スポーツ医・科学セミナーの開催	県内指定選手の調査研究事業	なし	なし	国体選手のメディカルチェック	特になし
24	岐阜県	スポーツ医科学委員会	7	0	0		4	1	1	1	スポーツ科学トレーニングセンター	本大会は原則としてドクター1名、冬季大会は帯同が可能な場合と不可能な場合がある。 トレーナーは可能な限り、チームに帯同している。 ドクター3名、トレーナー26名	スポーツ科学トレーニングセンターを通してのサポート スポーツドクター協議会を通しての種々のコンサルテーションなど スポーツ医科学サポートチーム制度を設置	折に触れ体協担当者、スポーツドクター、スポーツファーマシスト、スポーツ科学トレーニングセンターの活動の中で啓蒙活動を行っている。 また、ドーピング防止研修会の開催。（年2回）	スポーツドクター競技会を通して救護活動を組織的に行っている。	スポーツドクター協議会を通して、各連盟や指導者の研修会において講義や実習を行っている。	特に実施していない。	に準じて行っている。	なし	他種類の医療職者によってスポーツ医科学サポートを設置して、要請により必要な人材を派遣または紹介している。 スポーツドクターネットワークを構築し医学的サポートの需要に応えている。	に準じた制度を構築している。
25	滋賀県	スポーツ医・科学委員会	55	0	0		10	-2	-2		スポーツ科学に栄養・心理も含む	ドクター8名、トレーナー1名	ドクター55名、スポーツ科学者10名	ドクター55名、薬剤師2名	ドクター55名	ドクター55名	なし	なし	なし	なし	スポーツアドバイザー派遣事業の実施
26	京都府	スポーツ科学委員会	7	1	0		1	1	1	7	学識経験者4名、行政関係者3名	本大会ドクター1名（期間中途中交代で計2名） 会期前開催1名 冬季大会1名	筋力測定 栄養相談 医事相談	アンチドーピング講習会（毎年） ドーピング防止相談薬局マップの配布 （京都府内スポーツファーマシスト在薬局一覧）	なし	スポーツ医・科学室事業（基礎体力測定・筋力測定・栄養相談・医事相談）の案内、広報	なし	なし	京都きっず（タレント発掘事業）のサポート	スポーツ医・科学室事業（基礎体力測定・筋力測定・栄養相談・医事相談）	課題 アンチドーピングの選手への徹底 （うっかりドーピングの防止） スポーツ医科学相談事業における測定機器の老朽化等に伴う維持管理
27	大阪府	スポーツ医・科学委員会	8	0	0		2	0	0	6	薬剤師1名　学識1名　大阪体育協会理事4名	ドクター1名	なし	国体開催前に監督・選手に研修を行っている	なし	年に1回　スポーツ指導者研修会を兼ねたスポーツ医・科学セミナーを開催	なし	なし	なし	年に2回　スポーツ医・科学委員会を開催	なし
28	兵庫県	スポーツ医・科学委員会	6				3			7	体育協会役員2名、薬剤師2名、行政2名、兵庫県高体連会長1名	松本學、松本彰生ドクター（2名）	スポーツ医・科学委員会の開催（年2回） プロジェクト・1会議の開催（年3回）	ドーピング研修会の実施（年2回） 国体選手の健康調査の実施	本国体へ帯同ドクター派遣	プロジェクト・1会議の開催（年3回） 競技力向上研修会の実施	健康調査の実施	スポーツ指導者バンクの開設	選手育成事業として、ひょうごジュニアスポーツアカデミー（小4～小6）等の実施	スポーツ歯学分野から口腔衛生の必要性について講演会の実施予定	平成24年度の取り組みとしてシンポジウムの開催
29	奈良県	スポーツ医・科学専門委員会	8	1				1			(財)奈良県体育協会理事2名　競技団体2名	日体協公認スポーツドクターの内科・整形外科を前後半で2名ずつ派遣	国体出場選手に対する健康調査問診票の実施	国体担当者、国体出場する監督・選手に対する研修会を開催	なし	スポーツ医・科学研究会を開催	なし	なし	なし	なし	スポーツドクター・薬剤師会・県体協(競技団体)、三者間の充分な連携を計る
30	和歌山県																				

No	都道府県名	医・科学委員会等スポーツ医・科学に関しての会議体・組織について スポーツ医・科学関連会議体・組織体の名称	内訳 医師	内訳 トレーナー	内訳 薬科系	内訳 スポーツ科学	内訳 栄養	内訳 心理	内訳 その他	内訳 その他の内容	Q2. Q1における会議体・組織の活動内容 ①国体へのメディカルスタッフの帯同派遣	②国体強化等に関する医・科学サポート	③ドーピング防止に関する活動	④競技会開催にかかる医事サポート	⑤指導者・競技者へのスポーツ医・科学に関する啓発活動	⑥外傷・障害予防などに関する調査・研究	⑦総合型地域スポーツクラブのサポート	⑧有望競技選手のタレント発掘・育成への関与	⑨その他	Q3. 医・科学サポート活動について、新たな取組や課題
31	鳥取県	公益財団法人鳥取県体育協会	4	2	0	1	2	0	9	薬剤師1名、理学療法士1名、開催加盟団体代表7名	ドクター5名	国民体育大会に参加する帯同トレーナーの資質の向上を目的に、本会独自のカリキュラムを用いたトレーナー養成講習会を年3回開催している。	選手・指導者を対象としたドーピング講習会を年2回開催している。	なし	国民体育大会に出場する競技者・指導者にたいしてドーピング講習会を開催している。	なし	なし	なし	なし	専門性に特化したサポート体制を構築するため、委員会内をスポーツドクター部門、理学療法士トレーナー部門、薬剤師栄養士部門に分科する見通しである。
32	島根県	専門委員会(スポーツ医・科学委員会)	4	0	0	0	1	0	6	理学療法士1名、スポーツファーマシスト1名、大学関係2名、学校関係1名、関係行政1名	県本部帯同ドクターとして、国体へ各1名づつ派遣	県内重点高校の有望選手希望者に対し、年2回、生化学検査・食事指導等をサポート	国体出場選手・監督並びに高校部活動の部員・指導者に啓発活動を実施	なし	なし	なし	市町村体協や総合型クラブの希望によりスポーツ活動実践者医科学サポート事業を実施ドクター、理学療法士、栄養士をサポートチームとして派遣し、障害予防・リハビリ・食事指導を実施	なし	なし	なし
33	岡山県	スポーツ医科学委員会	5	1	1	5	1	2	3	薬剤師　中休達、高体連の理事長	ドクター3名交代で帯同。	心理サポート、栄養サポート、体力サポートを行っている。	アンチ・ドーピング教育・啓発事業を行い、おかやまけん薬剤師会薬事情報センターが当たっている。また平成15年からアンチ・ドーピング活動を行い、アンケート調査をもとに啓発活動を継続している。ドーピングしない・させない岡山県のリフレットを毎年発行している。	各競技団体が独自にやっている。	国体前に競技者や指導者に研修会を開催してスポーツ医・科学啓発事業をおこなっている。	外傷・障害予防のまとまった調査・研究は行っていない。	総合型地域スポーツクラブの28団体のサポートを行っている。実質10団体程度が活動が活発である。それに補助金を出してサポートしている。	夢アスリート発掘事業を県のスポーツ振興課が中心になって行っていたが、今は総合型地域スポーツクラブと4競技団体がゴールデンエイジの指導に当たっている。毎年4競技団体を対象にして取り組んでいる。	岡山県体育協会が各競技団体とヒヤリングしてできることのサポートに入っている。しかし予算が限られている。	昨年度は優秀選手育成における競技者のスポーツ医・科学調査報告書を作成した。各競技団体が望むサポートを現場に赴きヒヤリングを行い、具体的な内容を調査したものである。これをもとに本年度から具体的な取り組みに着手する予定である。
34	広島県	スポーツ医・科学委員会	30	6	0	11	4	5			ブロック大会　　ドクター5名、トレーナー39名 本大会　　ドクター8名、トレーナー37名 冬季大会　　トレーナー3名	強化合宿・遠征・練習会等へﾄﾞｸﾀｰ、トレーナー帯同 ジュニア選手へのサポート事業 ﾒﾃﾞｨｶﾙﾁｪｯｸｰﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾒﾆｭｰ作成～トレーニングｻﾎﾟｰﾄ～ﾄﾞｸﾀｰ及び栄養指導と連携 国体選手の簡易メディカルチェック　　結団・壮行式時に実施 中・高選手のメディカルチェック　　合宿時に実施	使用可能薬リストのポケット手帳作成・配布 指導者への研修会実施 監督会議時に開催 監督・選手への研修会実施 各事結団・壮行式時に開催	各競技団体で対応 依頼によりドクター紹介	ジュニア選手の研修合宿で講義 指導者の研修会で講義 小学生育成プログラムで保護者を対象に講義	なし	依頼によりドクター紹介	小学5～6年生を対象とした育成プログラムを実施 ○　運動適性テストの結果により50名を選考 ○　特定の競技ではなく様々な競技を体験 ○　保護者を対象に　栄養指導 成長期の内科・外科的講義 ﾒﾝﾀﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ指導	夢アスリート発掘事業を県のスポーツ振興課が中心になって行っていたが、今は総合型地域スポーツクラブと4競技団体がゴールデンエイジの指導に当たっている。毎年4競技団体を対象にして取り組んでいる。	なし	高校生へのサポート事業の充実 問の回答
35	山口県	やまぐちスポーツ医・科学サポート委員会	5	1	1	1	2	0	1	薬剤師	ドクター3名トレーナー29名	強化育成拠点校(高校)に栄養士、トレーナーを派遣。	国体監督・選手(年2回)選手保護者(年1回)	なし	HPに情報掲　載情報チラシ配布	なし	なし	ドーピング防止啓発活動　栄養指導	なし	医・科学研究の充実
36	香川県	香川県スポーツドクター協議会	75	13							本大会 ドクター　5名 冬季大会 ドクター　2名	スポーツドクター派遣事業 メディカルチェック 医事相談 ドーピング相談 その他	ドーピング防止研修会(アンチ・ドーピング部会) 結団壮行式後選手団に対して(2回) 競技別(5回) ドーピング防止研修会(1回:ドクター、ファーマシスト対象)	競技団体内でのドクターの位置付け(理事、顧問等)によりサポート	香川県スポーツ指導者研修会や香川県スポーツ医科学フォーラム、スポレク祭での講演や活動を実施	現在は実施していない。	個人レベルで関与	個人レベルで関与	特になし。	○アンチ・ドーピング部会の体制整備 構成員の枠拡大(ファーマシスト・県教育委員会・競技団体代表等) ○スポーツデンティスト養成・参加 ○スポーツ栄養士養成・参加
37	徳島県	スポーツ科学委員会	3	1	1	4	1	1	4	薬剤師1名、行政2名、競技団体1名	ドクター2名、トレーナー12名、スポーツメンタルトレーニング指導士1名、管理栄養士1名、科学者2名(内訳:スポーツ経営学1名、スポーツバイオメカニクス1名)	クレー射撃(心理サポート)	ドーピング防止教育・啓発セミナー6回開催(実施対象内訳:薬剤師1回、高校1回、国体選手選考2回、本大会競団式1回、冬季大会競団式1回)	なし	スポーツ科学セミナー15回開催(実施対象内訳:競技団体6回、市町村6回、学校体育運営2回、高校1回)	なし	なし	なし	なし	スポーツ科学拠点施設整備に伴うフィジカルチェックの実施マンパワーの不足
38	愛媛県	スポーツ医科学委員会	5	2	1	2	1	1			医師3名、トレーナー3名	資質向上会議、年に3回　スポーツ医科学フォーラム年2回開催	講習会を年2回開催		医療相談を競技会開催時に設置	数年前に調査報告と冊子を配布	イベント開催時に医療相談を開いている。スポーツドクタ10名参加	県下の小学生、中学生の体力測定をして発掘している	なし	サポート体制の中に、理学療法士の参加人数を多くしたい
39	高知県	スポーツ医・科学委員会	6	1	0	0	1	0	3	大学教授1名、薬剤師1名、県立スポーツ施設スポーツ振興担当1名	本大会　ドクター2名、冬季(スキー)大会　ドクター1名、高知県スポーツドクター協議会と連携をとり派遣をしている。	コンディショニング、トレーニング等研修会の講師	アンチ・ドーピング研修会の講師	なし	なし	なし	なし	なし	なし	平成23年度より高知県スポーツドクター協議会が中心となって高知県スポーツ・メディカルマネージャー養成講習会を行っているが、スポーツ医・科学委員会も協力体制をとっている。
40	福岡県	スポーツ医科学委員会	6	9	0	5	2	1	10	看護師	ドクター(清家浄、村上秀孝、安永英樹、前田朗、清家直人、平川宏之) トレーナー(中田幸一、野村幸司、吉井剛、岩井真一、片岡武、米岡耕介　、大音樹、斉藤慎二、神山崖二)	国体強化のためのメディカルチームを結成して強化活動を行っている。	年2～3回、ドーピングに関する啓蒙活動をしている。	国際大会、国体、県下の競技会のメディカルサポートを行っている。	年2～3回、スポーツ指導講演会を開催している。	医科学委員会のスポーツ医学班で調査研究中。	年2～3回の講演会などでサポートしている。	選手強化委員会が中心となってタレント発掘事業中。	「スポーツ外傷、障害の予防のためには何をすべきか」というテーマで活動中	スポーツ医学のidentityについて検討中
41	佐賀県	スポーツ医・科学委員会	50	9	3	0	3	0	3	2	ドクター3名、トレーナー6名	競技団体及び強化指定高等学校へトレーナーサポート活動。	国体監督・選手及び高等学校の体育教師へ学習会を行っている。各地域からは要望があれば出前講座を行ってる。	トレーナーサポート。	伊万里高校ホッケー部へサポート。	なし。	なし	来年度から予定で、先日開催競技団体へ説明会を開催。	なし	特になし。
42	長崎県	スポーツ医科学委員会	5	2	1	1	0	0	8	大学教員4名　薬剤師2名　高等学校教員1名　体育協会理事1名	本大会へは、前期・中期・後期に分け、それぞれ2名ずつ、計6名のドクターを派遣した。トレーナーは本競技会からの派遣はなし。冬季国体についても、スケート競技、スキー競技にそれぞれ1名ずつ派遣。	優秀選手の科学的育成を目的に、体力総合診断や動作分析の実施、及びその助成を行っている。体力総合診断の受診者のうち、国体候補選手、企業指定クラブ、高等学校強化校及び強化拠点校等の選手200名程度の助成を行う。	国民体育大会の監督及び選手への啓発活動として、監督会議などの際に計5回研修会を実施した。さらに情報提供冊子を配付し周知を図った。現在一般市民への啓発活動を検討している。	県中学校総合体育大会など、依頼された大会の競技の必要に応じてドクターを派遣している。	年に1回VICTORY SUMMIT スポーツ医・科学研修講座を開催し、スポーツ医・科学の基礎的内容の県下への普及・浸透を目指している。また、本体協内にある競技力委員会と連携し、長崎県体育協会県内巡回セミナーの開催に協力している。	長崎県体育史施設指定管理者と連携し、県医師会が開催する、長崎県スポーツ医学研修会に協力し、臨床医を対象にスポーツ医学の研修を行い、健康管理やスポーツ障害に対する基盤作りを図っている。	なし	なし	県民が生涯にわたって、スポーツ活動を安全かつ効果的に行えるよう、健康管理、スポーツ障害の予防、運動処方等スポーツ医・科学に関する情報を県下全域に広く提供する目的で、情報提供冊子を1500部程度作成し、関係機関などに配布している。	・今後、ドクターとアスレチックトレーナーとの連携をいかに深く合理的に図っていけるようにしていくか。・長崎国体に向けドクターのアンチドーピングへの知識理解を深めていく必要性。
43	熊本県	スポーツ医科学専門委員会	7	1	0	2	1	1	2	その他の内訳(薬化学・競技団体役員)	帯同ドクター<本大会2名、冬季大会2名> トレーナー<ブロック大会3名・本大会10名、冬季大会1名>	心理、栄養、体力づくりの各サポートプログラム。各団体の国体強化選手等のメディカルチェック事業、トレーナー派遣事業等を実施。	薬剤師会との共催事業(防止教育研修会)、JADA連絡会議への参加、選手への啓発説明会等	県医師会への助成事業を通し、各競技団体へ派遣	医科学専門委員会が主管となって「スポーツ指導者フォーラム」を開催	研究紀要を発行する中で、専門委員会委員より寄稿等の実績あり	講師等派遣事業として、トレーナー、医師を派遣し、総合型のプログラムを支援	タレント発掘事業の実施はなし	特記事項なし	女性スタッフの拡充が課題。ドクター、トレーナー等を中心に
44	大分県	スポーツ医科学委員会	13	2		6	1		9		ドクター4名、トレーナー1名　等	強化練習・合宿等帯同	ドーピング防止研修会講師等	県医師会と連携し、ドクター派遣	医科学冊子等の発刊	問診票の確認	特になし	特になし	特になし	特になし
45	宮崎県	スポーツ医・科学委員会	10	3	2	0	2	0	10	薬剤師2名、看護師2名、学識経験者5名、県体協理事1名	ドクター6名、トレーナー7名	メディカルチェックの実施、メディカルチェック報告会の実施	国体選手を中心としたドーピング防止研修会の実施	救護スタッフの配置	スポーツ指導者研修会における講演	なし	なし	なし	県体育協会認定アスレティックトレーナー養成講習会の実施	本年度より県体育協会認定アスレティックトレーナー養成講習会を開催し、本県独自のトレーナー養成を試みたが、今後の継続的な講習会の実施と国体をはじめとする各種大会等におけるサポートを充実させるための育成が必要であると感じる。
46	鹿児島県	スポーツ医・科学委員会	5					1	3	薬剤師1名、大学関係者2名	ドクター　5名 トレーナー　各競技団体に帯同(掌握なし)	国体選手のメディカルチェック・体力診断及びトレーニング処方事業	ドーピング防止教育・啓発活動	なし	なし	なし	なし	なし	なし	・スポーツドクター、アスレティックトレーナーの養成・連携 ・7年後の次期国体に向けて具体的な方策
47	沖縄県	スポーツ医・科学委員会	17	4	0	4	12	0	5	コーチング5名	「ぎぶ清流国体」ドクター3名、トレーナー2名	「スポーツ医・科学サポートプログラム」の提供。(※Q3に詳細)	「ドーピング防止啓発研修会」の実施	なし	会報の発刊	なし	なし	なし	なし	平成22年度に本県で開催された「美ら島沖縄総体2010」に向けた選手強化プログラム「スポーツ医・科学サポートプログラム」を平成21年度に発足し、選手・チームに対して各部会(医学・トレーナー・栄養・スポーツ科学・コーチング)が連携を取り、複合的なプログラムを提供。必要最低費用を受益者負担とすることで、「美ら島沖縄総体2010」までの限定とせず、永続的にプログラム提供ができる環境をつくる。